

SS研科学技術計算分科会 2013年度会合 アンケート結果

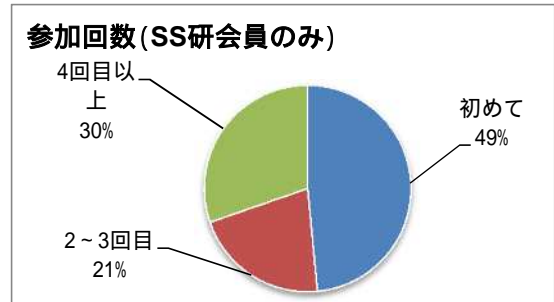
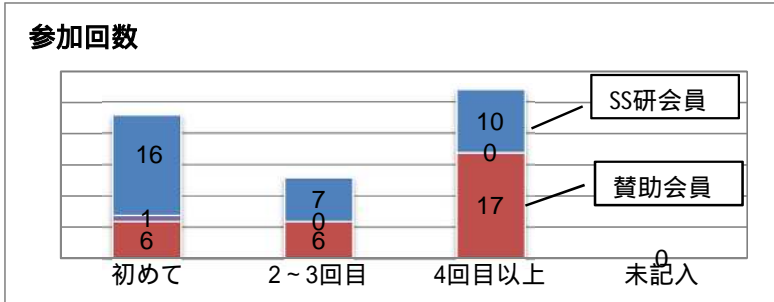
テーマ: ペタからエクサへの課題
 日時: 2013/10/23(水)13:30~17:45
 場所: ホテルオークラ神戸

基本情報

(1)参加者区分・アンケート回収状況

	参加者数	回収	回収率
SS研会員	51	34	67%
会員外/未記入	0	1	
賛助会員	61	29	48%
合計	112	64	57%

(2)参加回数

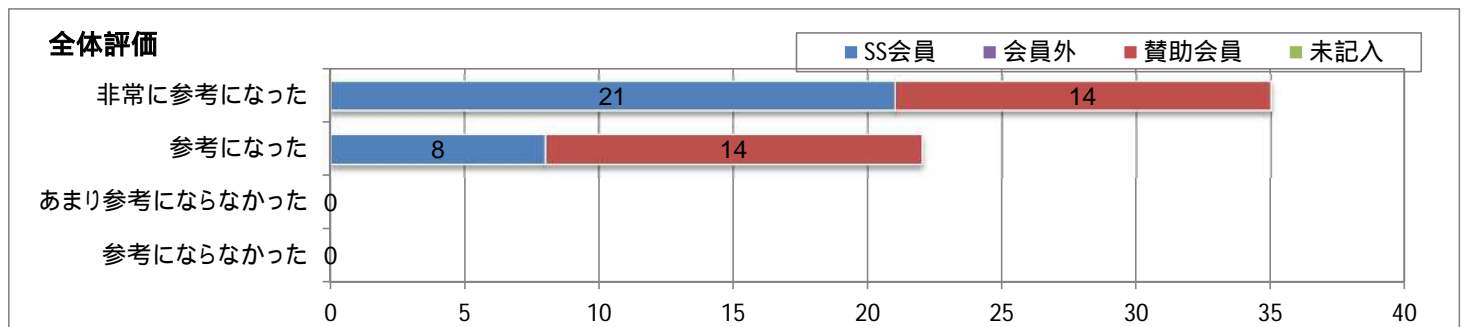


アンケート

1. 全体評価

全体平均: 4.61

SS研会員: 4.72
 会員外: 0.00
 賛助会員: 4.50



<全体へのコメント>

- ・すべての講演で得るものは多かった。(会員)
- ・京での経験を踏まえて、エクサ時代への検討状況を知ることができてよかった。また、ベンダーである富士通と直接意見や考えをやりとりできて、参考になった。(会員)
- ・コンパイラの話がコーデザインの1つのあり方と感じた。(会員)
- ・高性能計算機を用いてどのような科学計算が行われているか知ることができて勉強になった。専門性が高く内容が難しい部分もあったが、後で資料を参考に復習したい。(会員)
- ・ソフトウェアからハードウェアの話題まで幅広く、バランスが取れていて良かった。(会員)
- ・非常にためになった。特に [1][2]の講演は2週間以上前に聞ければスパコン仕様書の参考になったと思う。(会員)
- ・ハードウェア寄りの話からユーザの話まで、実情を踏まえて聞くことができて参考になった。(会員)
- ・電力制御の話や、ユーザの生の声が非常に参考になった。(賛助会員)
- ・利用者のシステムの活用事例や、要望が生の声として聞けて良かった。(賛助会員)

<各講演への主なコメント>

[講演1] 京コンピュータを用いた宇宙プラズマの第一原理ブラソフシミュレーション 梅田隆行(名古屋大学)

- ・梅田先生の講演は、具体的でとても分かりやすく良かった。(賛助会員)
- ・利用者からの生の声が非常に参考になった。(賛助会員)

[講演2] エクサスケールで顕在化する Power Wall問題 ~ 現状と今後の打開策 ~ 近藤正章(電気通信大学)

- ・非常に大事な問題であることを再認識した。(会員)
- ・スパコン開発利用の考え方が変わるのかと印象深かった。(会員)
- ・エクサスケールにおけるプロセッサメモリ通信といった消費電力の縮小という策を考えると、電力を供給する側も現状の技術で対応できるのか、あるいは技術発展があるかが大事だと思った。(賛助会員)

[講演3] これで我々のアプリケーションプログラムは速くなるか？-マルチコアスタ性能WG成果報告- 高木亮治(宇宙航空研究開発機構)

- ・各研究機関や大学のアプリケーションチューニングがまとめられており参考になった。また、一般ユーザがチューニングを行う際の問題点なども明示されており、今後の動向にも注目していきたい。(会員)
- ・アプリのチューニングの活動は継続いただき、成果を利用者にフィードバックして欲しい。やはりコンピュータは使われて価値が出るのでぜひお願いしたい。(会員)
- ・アプリケーションの高速化実践例について、非常に役立つ内容だった。(賛助会員)

[講演4] 「京」・FX10のコンパイラの成果と今後の取り組み 山中栄次(富士通)

- ・「F>C>C++」「F<C<C++」ではなく「F=C=C++」であって欲しい。(会員)
- ・技術寄りの人間だとC++よりになるのは当然。客観的な調査も必要と思う。これからもFortranをよろしくお願いしたい。(会員)

3. 今後取り上げてほしいテーマ

< 選択方式; TOP10 >

テーマ名	合計	SS研会員	会員外	賛助会員	未記入
1 エクサスケールコンピューティング	28	16	0	12	0
2 マルチコア/メニーコア	19	11	0	8	0
3 並列化(MPI, OpenMP,自動並列化,他)	18	14	0	4	0
4 コンパイラ(Fortran, C, C++, JAVA他)	17	13	0	4	0
5 パフォーマンス/チューニング	16	11	0	5	0
6 ビッグデータ	15	11	0	4	0
7 アクセラレータ/GPGPU	14	9	0	5	0
8 ジョブスケジューラ	14	4	0	10	0
9 運用による省電力	12	6	0	6	0
10 データマイニング/統計解析	10	9	0	1	0

< 自由記入; その他キーワード >

- ・ソフトウェアの領域・アルゴリズムと適合するハードウェア・アーキテクチャ
- ・量子化学
- ・数式処理
- ・応用として数値計算に関係するシミュレーションの最新動向、テクニック
- ・ビッグデータとHPC
- ・データサイエンティスト
- ・新しいベンチマークプログラム
- ・スクリプト言語
- ・メニーコア時代(コアあたりメモリ容量少)に対応するアルゴリズム

以上

SS研科学技術計算分科会 2013年度会合【懇談会】アンケート結果

テーマ： エクサ時代のプログラミングモデル ～性能か、生産性か～
日時： 2013/10/23(水) 18:30-20:30
場所： ホテルオークラ神戸

基本情報

(1)参加者区分・アンケート回収状況

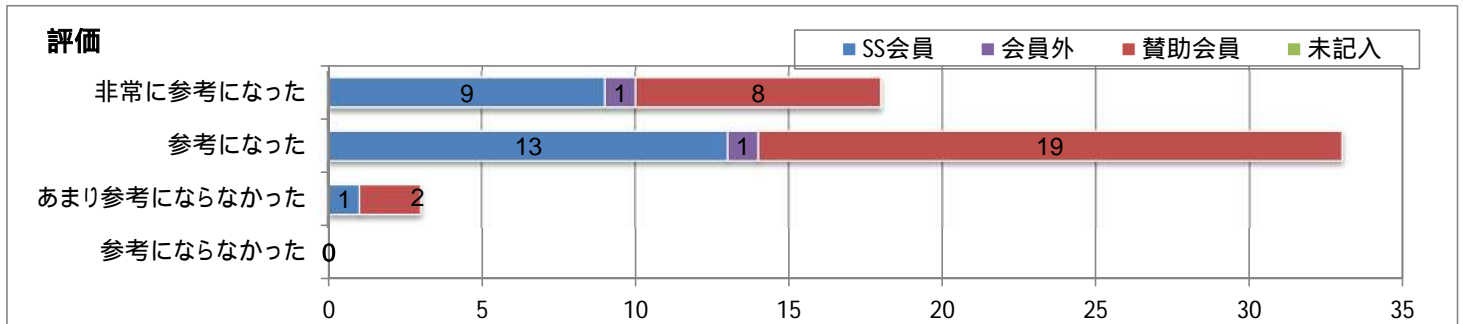
	参加者数	回収	回収率
SS研会員	34	26	76%
会員外/未記入	0	3	
賛助会員	56	30	54%
合計	90	59	66%

アンケート

1. 評価

全体平均: 4.21

SS研会員: 4.30
会員外: 4.50
賛助会員: 4.14



<コメント>

- ・性能と生産性の両立はできないと思う。上手な役割分担が重要だと改めて思った。(会員)
- ・逆のパラダイムにならないか。生産性の高いプログラミング言語が高速で動くハードは作れないのか？(会員)
- ・自分が言語に対して持っている考え・感じが、他の人達とあまり変わらないと分かって良かった。(会員)
- ・プログラムも自分で書きたい。しかし遅くても自動並列化で終わりたい。MPIは書ける。某研究所のA氏のテキストは良い。富士通も頑張っ
て欲しい。(会員)
- ・すこし話題が難しかった。もう少しリアルに分かる工夫が欲しかった。(賛助会員)
- ・すこし難しかったか。(会員)
- ・マニアックすぎ(笑)(会員)
- ・議論が少し広がりすぎた。(会員)
- ・結論がない、論議がある。このような会は面白い。(会員)
- ・活発な議論が行われて、盛り上がったと思う。(会員)
- ・熱い議論で面白かった。(会員)
- ・どうせ結論のない話なので、フロアが盛り上がり良かった。(会員)
- ・特定の人同士の議論に終始した。多くの人に参加できるような議題だともっと良かった。(賛助会員)
- ・テーマは良かったが、やはり人数が多すぎる。(会員)
- ・会場が広くなって、まとまりがなくなったように感じる。(会員)
- ・会場は3/4くらい(の広さ)が良かったのでは。(賛助会員)

2. 今後の懇談会テーマ案

- ・ファイルシステム(会員)
- ・I/Oと可視化(会員)
- ・I/O(会員)
- ・メニーコア(会員)
- ・今回と同じテーマ(エクサ時代のプログラミングモデル ～性能か、生産性か～)(会員)

以上